

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 60 号

平成22年9月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次・相模原教養部校舎	P.1	職場紹介	P.5
藤野元学部長追悼	P.2	平成22年度若手研究者奨励賞	P.6
三水会創設30周年投稿	P.3	体育祭・課外活動助成	P.7
平成22年度三水会定期総会報告	P.4	お知らせ・三水会30周年パーティー案内	P.8



長年、北里の"北"の字の講堂として親しまれた建築家・丹下健三氏設計による旧教養部の校舎が、この夏限りで解体されます。9月からは一般教育部新校舎L1号館の運用が始まります



藤野和男先生を偲んで

奥村 誠一 (5 F A)

本年(平成22年)7月21日に北里大学名誉教授藤野和男先生がご逝去されました。享年84才でした。先生のご冥福をお祈りいたしますとともに、ここに謹んでご報告申し上げます。

先生は、大正14年に東京でお生まれになり、昭和25年に東京大学農学部水産学科をご卒業されました。ご卒業後は、鯨類研究所所員、米国ホルル水産生物学研究所室長、ハワイ州立大学遺伝学部講師を歴任され、昭和47年、北里大学水産学部に教授として赴任されました。この年は水産学部が開設された年であります。先生は、学生課長、図書館長、水産増殖学科長などの重職を歴任された後、第5代水産学部長となられ、平成3年3月にご退職されるまで、教育・研究・学部運営に邁進された



研究室の宴会で歌を披露してくださった藤野先生(昭和55年)

ことは、多くの三水会会員の皆様のご存知のとおりであります。先生のご研究は、生涯一貫して、重要水産生物の遺伝育種学研究でした。研究対象は、クジラ、カツオ、アワビ、ホタテガイ、ハタハタなど極めて広範囲にわたり、世界の遺伝育種学分野に多大なる足跡を残されました。現在のこの分野の研究は、先生の業績が礎となり発展を遂げていると申し上げても過言ではありません。

さて、先生に対する私の思い出をここで少し書かせていただきます。先生との初めての出会いは私が三陸キャンパスに進学したとき(2年生、昭和52年)であります。私が先生のことを特別に意識し始めたのは、「水族遺伝育種学」の講義を受けた3年生の時です。「水産生物を遺伝的に改良するなんて、何と未来的な学問なんだろう」とその時強く感銘を受けました。「先生も優しそうだし、藤野先生の研究室に入ろう」と決断し、魚類生理学研究室での卒論研究が始まりました。「先生も優しそうだし」というのは、私の甘え

た心を感じたことであり、実は「今までこんなに厳しい人に出会ったことがない」と思うほど日々厳しく指導を受けました。先生に叱咤激励され、己の不甲斐なさを見たこともありました。「先生が研究室に顔を出すと、学生全員が背筋がピンと伸びる」そんな先生は今では滅多にお目にかかれな存在でしょう。そんな厳しい先生でしたが、私の学位論文が審査に通った時、教授室で私にそっと手を差し伸べ、握手をしてくださりました。その時の先生の笑顔は今でもはつきりと覚えています。

私は、この時に初めて「本当の優しさとは何か」ということを思い知らされた気がしました。本年3月の学部卒業式の時に藤野先生は遠路はるばる来てくださいました。この時お会いしたのが最後でした。その時は大変お元気そうでしたので、まさかこのようなことになるとは思いませんでした。お顔を拝見したのはその時が最後でしたが、実は、亡くなる1ヶ月前に、この三水会報への執筆依頼のため、先生と電話でお話をする機会に恵まれました。原稿執筆半ばで亡くなられてしまいましたので、本会報に先生のご寄稿が載ることは残念ながら



同窓会講演会後の懇親会で挨拶の藤野元学部長(平成18年)

叶いませんでしたが、私個人としては、あの時に電話で話ができることがせめてもの救いでした。「執筆要領について、もつと要領よく、分かり易く説明してくれませんか」と、学生時代に毎日のように聞いていた先生のお小言口調を電話で聞くことができ、その時は学生時代のあの教授室にタイムスリップした感触を味わうことができました。今となっては、「先生からの素敵なプレゼントだったのかなあ」と勝手に思っております。

藤野先生、長い間本当にお疲れ様でした。これからも我々卒業生のこと、そして学部のことを見守っていただけるものと信じております。最後にりましたが、先生の奥様を始めとするご家族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げますとともに、改めまして先生のご冥福をお祈りいたします。先生、本当にありがとうございました。どうか安らかに眠りください。さようなら。

不肖の弟子 奥村 誠一

「平成22年度三水会定期総会報告」

平成22年5月22日（土）午後6時より北里大学白金キャンパス薬学部1号館1507教室にて平成22年度三水会定期総会が開催されました。代議員総数52名に対し出席者48名（委任状提出者16名）欠席4名となりました。議長にFF5期・佐々木尊司氏 議事録署名名人にFA2期・西村直也氏 議長にFF5期・高坂友和氏を選出しました。その後議事に入り執行部より平成21年度事業報告及び収支決算報告が行われ、続いて監査報告が行われました。報告通り承認されました。引き続き平成22年度事業計画及び予算案の説明があり、原案通り承認されました。

『平成21年度事業報告』

1、会報の発行
同窓生の動向、学部の状況、各種の情報などを内容とした会報を平成21年9月と平成22年3月の二回発行した。



(平成22年度定期総会)

- 2、三水会ホームページの運営管理
会員に対し本会の情報を迅速、かつ充実した内容を提供した。
- 3、会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、名簿情報の正確性の向上に努めた。
- 4、親睦会の開催
平成22年2月20日（土）北海道地区の会員を対象とした親睦会を札幌市で開催した。
- 5、同期会等の助成
同期会、講座別OB会及び地方親睦会等卒業生の集会の費用の一部を助成した。
- 6、大学・学生との懇談会の開催
大学・水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行った。
- 7、課外活動助成
クラブの活動経費、大学祭及

平成21年度収支決算書

支出の部			収入の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
1.事業費	4,450,000	3,870,930	1.部会助成金	4,320,000	4,320,000
(1)会報の発行費	1,950,000	1,719,631	2.会報郵送料補助	574,000	574,000
(2)三水会HPの運営費	200,000	161,160	3.前年度繰越金	1,780,941	1,780,941
(3)親睦会の開催費	200,000	200,000	4.預金利息	3,000	1,373
(4)同期会等助成費	200,000	95,000	5.雑収入	50,000	50,000
(5)大学・学生との懇談会費	100,000	10,500	6.講演会開催費補助	1,300,000	1,300,000
(6)課外活動助成金	200,000	200,000			
(7)就職ガイダンスの開催費	250,000	116,370			
(8)漁船海難遺児育英会寄付	50,000	50,000			
(9)講演会開催費	1,300,000	1,318,269			
2.運営・管理費	2,370,000	1,745,737			
(1)印刷・通信費	420,000	258,744			
(2)会議費	700,000	469,120			
(3)総会費	250,000	168,890			
(4)事務局費	950,000	822,983			
(5)慶弔費	50,000	26,000			
3.予備費	1,207,941				
4.次年度繰越金		2,409,647			
合計	8,027,941	8,026,314	合計	8,027,941	8,026,314

- 8、就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生による就職ガイダンスを平成21年10月16日（金）に水産学部生を対象に三陸校舎にて行った。
- 9、漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行った。
- 10、講演会の開催
全学同窓会と連携して第39回講演会を平成21年11月15日（日）白金キャンパス薬学部コンベンションホールにて開催した。
*平成21年度日本水産学会秋期大会に大学助成特別会計より5万円寄付した。

平成22年度予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1.事業費	4,200,000	1.部会助成金	4,230,000
(1)会報の発行費	2,000,000	2.会報郵送料補助	591,000
(2)三水会HPの運営	200,000	3.前年度繰越金	2,409,647
(3)親睦会の開催	200,000	4.預金利息	3,000
(4)同期会等助成費	200,000	5.雑収入	10,000
(5)大学・学生との懇談会費	100,000		
(6)課外活動助成金	200,000		
(7)就職ガイダンスの開催費	250,000		
(8)漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
(9)三水会創設30周年記念事業費	1,000,000		
2.運営・管理費	2,370,000		
(1)印刷・通信費	420,000		
(2)会議費	700,000		
(3)総会費	250,000		
(4)事務局費	950,000		
(5)慶弔費	50,000		
3.予備費	673,647		
合計	7,243,647	合計	7,243,647

『平成22年度事業計画』

- 1、会報の発行
同窓生の動向、学部現状、各種の情報などを内容とした会報を平成22年9月と平成23年3月の二回発行する。
- 2、三水会ホームページの運営管理
会員に対し本会の情報を迅速、かつ充実した内容を提供する。
- 3、会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、名簿情報の正確性の向上に努める。
- 4、親睦会の開催
各地区の会員を対象とした親睦会を開催する。
- 5、同期会等の助成
同期会、講座別OB会及び地方親睦会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。
- 6、大学・学生との懇談会の開催
大学、海洋生命科学部在生との懇談会を開催し意見交換を行う。
- 7、課外活動助成
クラブの活動経費、大学祭及

び体育祭費用の一部を助成する。

8、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを海洋生命科学部在生を対象に三陸校舎にて行う。

9、漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行う。

10、三水会創設30周年記念事業

研究室の系譜の作成と記念パーティーを行う。

卒業後30年の近況と

職場紹介

食品学科4期生 伊藤 知尋



三水会報をご覧のみなさんこんにちは。私は昭和54年度食品

学科利用学研究室（太田教室）を卒業しました伊藤と申します。と申し上げても、もうご存知の方の方は少数かも知れません。振り返れば卒業して、丸30年という年月が過ぎてしまいました。

現在私は、介護老人保健施設「三鷹中央リハビリケアセンター」と言う施設にて事務方を生業としています。なぜ食品学科を出て老人施設なの？と云うような話になりませんが、そのような話にしまして、我々は遅かれ早かれ年老いていきます。そのために現在40歳を過ぎると誰もが、介護保険に加入します。そこはその介護保険により運営されている老人施設です。

老人施設と云いますと、終の棲家である老人ホーム等を想像される方もいらっしゃると思いますが、在宅生活への復帰と自立支援を目的、介護老人保健施設のなかでも特に今注目されている、リハビリテーションを療養生活の中心とした施設です。何か宣伝めいている様で心苦しいのですが、明日は行く道というものです。我々（50代半ばですが）同年代の間でも脳溢血や脳梗塞で、身体に障害が残ったり、家族の介護や両親の介護の話題が、日常的に出て来るようになっていきます。たまたま縁があり流通業界から介護業界に転職しましたが、かつては「介護なんて」と、対岸の火事でしたが、今は言っていられない程、身につまされる日々を送っています。私

自身は、施設職員100名の労務管理を中心に、日々業務に明け暮れています。毎日現場の施設利用者様（このように呼称）のリハビリテーションや介護（様々な介護があります）を、目の当たりにしてまずと将来の自分を見ているようにも思え、また介護に携わる、看護や介護職員の献身的な姿勢見ると、自分には絶対に真似が出来ないという、恥ずかしさと彼ら彼女たちに対する尊敬の念が、自然と湧きあがってくる自分に気がつきます。彼らはまだ20代30代が中心です。

私の母も今年で80歳になります。どのご家庭でもまだまだ大丈夫と思われるでしょうが、いざという時には慌てるものです。近くに介護老人保健施設（老健と云います）がありましたら、ぜひ一度見学に行くのも将来のために役立つし、また区役所や市役所等で施設情報を聞いてみるのもいいかもしれません。

最後になりましたが、三水会も創設30周年との事、おめでとうございませう。初代長屋会長、二代目長谷川会長、現在 高橋会長そして歴代理事、代議員の皆様、忘れてはならない事務局の方々本当にご苦労様でした。また私自身、微力ながら参加出来たことを嬉し

く思います。これからも陰ながら応援しています。三陸万歳、三水会万歳!!



漁火祭の秘蔵っ子神輿(昭和53年)

平成22年度 若手研究者奨励賞

シジミの研究!
〜支えた三陸魂〜

鈴木 雅絵 (26F A)

この度は名誉ある同窓会若手研究者奨励賞を頂きまして、誠にありがとうございます。

私は海洋基礎生産学研究室において、小河久朗教授、加戸隆介教授、難波信由准教授から研究の面白さを教えて頂き、小河教授のご

紹介で(財)かき研究所に就職致しました。さらに当時所長を兼務されていた東北大学の木島明博教授のご指導により、博士(農学)を取得しました。今回はその博士の課題「東アジアにおけるシジミ類の種構成およびヤマトシジミの集団構造に関する遺伝学的研究」に対して賞を頂き、全てが三陸で育んだ研究に対する思いから繋がっているように感じております。重要な水産生物であるヤマトシジミにおいて、近年、産地偽装が問題視されると共に、無法な移植放流による生態・遺伝的攪乱が危惧されています。東アジアにおけるシジミ類の種やヤマトシジミの集団構造は形態が類似しているために分類が難しく、遺伝学的解析も行われておりません。そこで本研究は遺伝学的解析を基に、東アジアにおけるシジミ類の種構成と、ヤマトシジミの集団構造を明らかにすることを目的としました。さらにこれらのデータを基に、より簡便な産地識別法の開発にも試みました。調べた東アジアのシジミ類の種分類は、①ヤマトシジミ、②太湖I、③マシジミ、④セタシジミであること、①ヤマトシジミは4つのクラスターに分かれ、地理的分化による地域集団構造が示唆されました。Dot-plot-SNP法による、日



講演の鈴木雅絵さん

本産ヤマトシジミの簡易判別法の開発にも成功し、多検体を簡便且つ安価に検査できることから実用化へ展開が期待されています。保全や商品管理に本研究結果を利用して頂くのと同時に、より多彩なシジミ類の種構成が示唆されたことから、外国産シジミの移入のモニタリングのためのみならず、シジミ資源の保全のために、今後さらに多くの地域で解析を行い、種構成とその分布域の解明が必要であると考えております。最後になりましたが、北里水産で培った三陸魂だけではなく、研究者賞までくださいました先生方ならびに本会員の皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

体育祭報告

北里大学水産学部・海洋生命科学
部 体育祭実行委員長 3年
高橋 寛明

平成22年5月15日、16日に三陸
キャンパスで開催された第37回水
産学部・海洋生命科学部体育祭に
ついてご報告させていただきます。

今年4月下旬から体育祭実行
委員15名、体育会役員6名の計21
名で体育祭に向けて始動しまし
た。準備は順調に進んでいきまし
たが体育祭3日前の雨でグラウン
ドには水たまりが広がり、ソフト
ボールが行えるかどうか分からな
い状況でした。しかし、体育祭当日
は空が透き通るほどの快晴。しか
も、気温も上がり無事に全競技開
催することができました。

競技種目は例年通り、ソフトボ
ール・ドッチボール・3on3・
フットサルの4種目を行いました。
ソフトボールは昨年よりも3
チーム多い11チームで行われまし
た。2日目の決勝リーグに残った
3チーム全てが2年生チームであ
り、2年生の勢いと期待を感じさ
せてくれました。ドッチボールは
4チームで行われ、なんと2勝1
敗で1位が3チーム並び、延長戦
でも決着が着かずジャンケンまで



もつれ込む今大会最も接戦だった
競技でした。3on3も4チーム
の参加があり優勝チームは3戦全
勝という圧巻の優勝でした。フッ
トサルは5チームの参加があり、
どれも1点の重みを感じさせる緊
迫した試合でした。

ワンプレーごとに歓声が沸き、
また悔しがる声も起きましたが、
みなさん楽しそうに笑っていまし
た。また、どの競技も予定通りに進
み、怪我やトラブルもなく無事に
終わらせることができました。私
は試合にも出場し実行委員長らし
い働きはしていませんが、成功で
終わらせられたのは優れた人材が
集まった体育祭実行委員、いざと
言う時に頼りになる体育会メン

バー、いろいろとサポートして下
さった昨年度体育会の先輩たち、
快く協力していただいた各部活主
将さん、むちゃな要求にも親切に
対応して下さった学生課の皆様、
ハツラツプレーを見せて下さった
参加者の皆様、当日お忙しい中応
援に来て下さった皆様のおかげで
す。心から感謝申し上げます。あり
がとうございました。

三水会課外活動助成金を 受賞して

北里大学水産学部北里会 平成21
年度潜水部主将 4年 長尾 篤

この度は三水会助成金をご交付
賜りました事心より感謝いたしま
す。部員を代表いたしまして、深く
お礼を申し上げます。

我々水産学部潜水部は三陸の浪
板海岸を中心に潜水活動を行って
います。我々潜水部の最大の特徴
は実際に海に潜り、その場に生息
している生物の生態を自然のまま
の状態を観察できるということで
す。また、季節ごとに変わる海の表情
を垣間見ることでもでき、その変化
を自分の肌で感じ、自然の偉大さや脅
威を知ること、海の尊さ、海洋生
命の重大さを深く学んでいます。
さらに今年度は多くの2年生が入
部し、学部内の体育会では最も部



ミーティング風景

員数の多い部活動になりました。
さて、頂いた助成金ですが、話し
合った結果、潜水活動に必要なタ
ンクを購入させて頂くことにしま
した。部員一同これを励みに、さら
に向上を目指し、より活発で活気
のある部活動にしていきたいと思
っております。

最後になりましたが、今回この
ような賞を受賞できたのも、今ま
でご指導してくださった部長の朝
日田先生、OB・OGの先輩方、ま
た活動をしていくにあたりお世話
になったすべての方々のおかげだ
と思っております。この場を借り
て、改めて深くお礼申し上げます。
本当にありがとうございます。

■ 三水会創設30周年記念パーティーのご案内

平成23年3月12日(土)午後2時より東京都立葛西臨海公園において、会員及び家族、学部教職員及び退職者を対象とした講演会と親睦会の開催を予定しております。

申込方法等、詳細につきましては次回平成23年2月発行の三水会報ならび三水会ホームページにてお知らせいたします。

■ 海洋生命科学部学生課便り

三水会の皆さん、常日頃お世話になっております。

海洋生命科学部では教育研究体制をより一層強化するため、これまで3講座10研究室であったものを、今年度から、3講座13研究室にて新たなスタートをきりました。

昨年秋にJABEE(日本技術者教育認定機構)の継続審査を受審しましたが、このほど認定できうる期間では最長の6年間(2015年3月31日まで)を認定する旨の報告がありまして、本学部の教育の質保障が確固たるものとなりました。

続いて先生方の人事をお知らせいたします。本学部初の女性教員2名を含む3名が新規採用となりました。

■ 教員人事

○ 採用

阿見彌典子(魚類生理学講師)	平成22年4月1日付
天野春菜(水族機能生物学講師)	平成22年4月1日付
安元剛(資源化学講師)	平成22年4月1日付

この原稿執筆の8月中旬現在、三陸も連日猛暑が続いております。皆さんにおかれましては、ご自愛いただきながら、万全の体調でそれぞれの分野でご活躍下さい。

現在学部生の就職率が50%となっております。前回からの引き続きで恐縮ですが、お勤めの会社等で採用枠がございましたら、学生課までご連絡いただきたくよろしく願いいたします。連絡先：0192-44-3940

■ お願い

海洋生命科学部では、これからも優秀な受験生を獲得して学部を発展させるとともに、卒業後の就職先の一つとして、水族館や博物館、また、中学校や高等学校などに勤務できる支援体制を整えたいと考えております。つきましては、水族館や博物館、また、中学校や高等学校(予備校と塾を含む)に勤務されている同窓生の皆様とネットワークを構築し、意見交換および情報交換をしたいと考えております。ご賛同される同窓生の方はご連絡ください。

連絡先：北里大学海洋生命科学部 森山俊介(10期生)

電話：0192-44-1926

Mail：morisuke@kitasato-u.ac.jp

～ 訃報のお知らせ～

1976年卒 初見 義則(平成20年1月6日逝去)

1979年卒 菊地 秀樹(平成22年3月23日逝去)

1981年卒 高 一秀(平成22年4月13日逝去)

【謹んでご冥福をお祈りいたします】

編集後記

この夏は、大雨や酷暑といった災害が各地で起こっているようです。災害に遭われた方がいらっしゃればこの場を借りてお見舞い申し上げます。毎年のように異常気象が叫ばれていると何が異常なのか分からなくなりそうです。時には立ち止まって、足下を確認することが必要なのではないでしょうか。今年も三水会発足30周年を迎えます。イベントの企画も進められているようです。多くの会員の方々にご参加いただき、情報交換や懇親を深める場としてご利用いただきたいと思います。また、この機会に自分達の足跡を振り返ってみてはいかがでしょうか。